

2012年9月からの不活化ポリオワクチン接種について (本千葉小児科2011年8月17日V1RV10月4日RV211月5日RV3)

生ポリオワクチンが8月で突然中止となり9月から不活化ポリオワクチンに変更になります。

ポリオワクチン完了していない方(3種混合ワクチン接種対象者)

ポリオワクチン完了とは、現時点の日本では、2回生ポリオ内服した方、1回生ポリオ不活化ポリオ3回または不活化ポリオ4回接種した方です。

不活化ポリオワクチンIMOVAX-POLIO(Salk株:下記歴史参照)は9月から国内導入。3種(DPT)混合ワクチン接種対象でポリオワクチン未完了者のためのものです。

生ポリオ接種のない方:3種混合ワクチンに準じた間隔で4回接種

3-8週間隔で3回接種、4回目は6-12月後

1回生ポリオ接種:合計3回接種

3-8週間隔で2回接種、3回目は6-12月後

不活化ポリオ接種と生ポリオを受けた方:不活化ポリオを合計4回になるまで接種します。

*国内導入のIMOVAX-POLIOの針は太く切れにくいもので痛い(個人輸入したものは痛みの少ない針となっています)。

2012年8月以降出生の方

国産4種混合ワクチン(従来の3種とポリオSabin株)が今年11月導入。

名称:クアトロバック皮下注シリンジ(千葉市)、テトラビック皮下注シリンジ。

11月から3種混合ワクチンと同様の間隔で接種することになります。

4種混合ワクチン接種開始を待ち3種混合ワクチン接種を遅らせる事はお勧めしません。

理由:百日咳は新生児もかかる疾患で、かかると死に至ることもあります。先進国では通常2ヶ月接種開始、日本では何故か3ヶ月、米国では百日咳の再流行が問題となり出生時3種混合ワクチン接種も検討されています。

Salk株の不活化ポリオ(MOVAX-POLIOと同じ)を含む4種混合ワクチンの導入は1年以上先になるようです。

また不活化ポリオワクチンは、同一のものを使う指示がでてしまいました。原則として3種混合ワクチンあるいはIMOVAX-POLIOで開始した方は11月から4種に変更はできません。

ポリオワクチンの歴史:

米国:1950年当時、年2万人以上ポリオによる麻痺が発症。

1952年、不活化ワクチン(Salk)ポリオワクチン導入。

1960年当時の不活化ワクチンは不完全で2545名のポリオ発症。

1961年Sabin生ワクチンに変更。その後ポリオ撲滅1979年。

日本:1961年ポリオの大流行年間患者5606人。日本は、ソ連から緊急輸入し(注参照)、Sabin生ワクチン(米国開発ソ連で導入)接種開始。1981年ポリオ根絶。

優れたSabinワクチンのお蔭でポリオ根絶したため、ワクチン関連性麻痺型ポリオ(VAPPといいます)が、約100万人に1名発症することが問題となっています。このため、多くの国では不活化ポリオワクチン(IPV)になっています。日本では、8月で公費補助の内服ポリオワクチンは中止、9月1日からIMOVAX-POLIO(Sanofi Pasteur製)が定期接種として導入されます。さらに11月からはSabin株由来の不活化ポリオワクチンを含む4種混合ワクチンが導入されました。

米国では、1940 - 1970年ごろまでのワクチン接種と病気予防の成功が再評価され、現在の方法に昔の方法を導入する動きがあります。

参考文献:

1. pp363, Review of Medical Microbiology 10th edition, Jawetz E et al, 1972

2. 李啓充氏 論文: 続アメリカ医療の光と影第194-197回, 週刊医学界新聞2922-2927号, 2011年(インターネットで閲覧可能)

3. ワクチン添付文書

注: ソ連では、1956年から、米国で開発されたSabin生ワクチンを大規模に導入しポリオ撲滅中であった